

計画内容が大きく後退！ リニア中央新幹線の開業が遅れる！？

3月6日、マスコミ各社は、JR東海の次期社長に就任する山田副社長が、2025年に目標にしていたリニア中央新幹線の開業が遅れる可能性が出てきたとする会見を大きく報じました。この会見は、これまで労働組合に説明してきた計画内容から大きく後退するものです。本部は、計画の見直し等について申し入れを行いました。

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 松本 正之 殿

JR東海労申第29号
2010年3月18日

JR東海労働組合
中央執行委員長 鈴木 富雄



山田副社長の「リニア中央新幹線開業遅れる」との見解に関する申し入れ

3月6日、マスコミ各社は、JR東海次期社長に就任する山田佳臣副社長の「リニア中央新幹線開業が2025年より遅れる可能性が出てきた」とする見解を報じた。その理由として、「経済状況の変化から建設資金計画を精査する」「国の手続きが想定よりも遅れている」としている。

この間JR東海労は、リニア中央新幹線構想が2007年12月に発表されて以降、3.2兆円もの長期債務を抱える経営実態や環境問題、安全問題等様々な検証を行った上で計画の見直しと解明の申し入れを行ってきた。しかしJR東海は「労働組合に説明する事項ではない」との姿勢から極めて不十分な内容の回答を繰り返すだけであった。

今回報道された内容は、JR東海が説明してきた計画内容から大きく後退するものであり、事業計画そのものを見直すことも含め検討すべきであると考える。よって、下記の通り申し入れるので、誠意ある回答を行うこと。

記

1. 新聞報道によれば、山田副社長は収益減や金利コストの上昇によってリニア中央新幹線建設で「会社の健全性が損なわれる可能性がある」との見解を明らかにしている。リニア中央新幹線の事業計画について、見直しをすること。
2. 3月3日、リニア中央新幹線構想について国土交通省交通政策審議会・鉄道部会・中央新幹線小委員会で審議が始まり、採算性や必要性に疑問視する発言があったと報道されている。JR東海としてあらためて、採算性及び必要性等について再検討すること。
3. 新聞報道によれば、山田副社長は2025年開業について「目標年次をずらすことは当然ありうる」「25年開業は固定ではない」との見解を明らかにしている。何年の開業時期を予定しているのか明らかにすること。
4. 新聞報道によれば、山田副社長は「10年3月期の業績を踏まえ建設資金計画を精査する」との見解を明らかにしているが、JR東海として検討している今後の詳細な収支見通しを明らかにすること。

以上

山田副社長の「リニア中央新幹線開業遅れる」との見解に対し申し入れ！